

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第2回フォーラム研究会
議事録

日時：平成25年5月31日（金） 13：00～16：30

場所：東京大学工学部12号館2階会議室

出席者：13名（順不同・敬称略）

木村（PONPO）、植木（元気ネット）、田満字（PONPO）、大石（PONPO）、
神崎（PONPO）、久保（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、渋谷（元気ネット）、
崎田（元気ネット）、竹中（PONPO）、中岡（元気ネット）、丸山（PONPO）、諸葛（PONPO）

配布資料

F2-0. 議事次第

F2-1. 第1回フォーラム研究会議事録案

F2-2. 第1回フォーラムに関するアンケート（自由回答）

F2-3. 第2回フォーラムプログラム案

F2-4. 記録について

F2-5. 第1回フォーラム グループワーク付箋まとめ

F2-6. 「原子カムラ」「原子力村」（パワーポイント資料）

議題

0. 議事録確認

1. 第1回フォーラムの反省

2. 第2回フォーラムについて

3. その他

0. 議事録確認（配布資料 F2-1）

木村氏より、資料 F2-1 に基づき、前回の議論の内容が確認された。

1. 第 1 回フォーラムの反省（配布資料 F2-2、F2-5）

まず、各自が第 1 回フォーラムの印象、反省点等を述べた。次いで、重要な反省点に対する対策を検討した。

【全体に関して】

- ・ 様々な立場の参加者がおり、多様な意見が出てきそうだと感じた。
- ・ 時間通りに終わらなかった。**時間管理はしっかりするべき。**
- ・ アンケートの意見を参考にすることも重要だが、**研究としての軸はぶらすべきではない。**
→研究として重要な点は、お互いを「尊重」する場を作りたいということ。
- ・ フォーラムの目的が分からないという意見が多い。→**目的を詳細に説明すべき。**
- ・ 第 1 回にしては内容が多かった。次年度は、初回は自己紹介をしっかり行うだけでもいいかもしれない。
→自己紹介だけではなく、やはり初回も協働作業を取り入れるべき。今回も、グループワークをしたから見えてきた面が多々ある。
- ・ 順番に意見を言う形式だと、まだ話していない人は自分の話す内容を考えていて、他の人の意見をあまり聞いていないように感じた。相手の話を聞くことが大切なこのフォーラムにおいて、重要な問題だと考える。
- ・ 以下の 3 種類のギャップをいかに越えていき、原子カムラの境界を越えるという目標に近づけていくか、今後考えていく必要があると感じる。
 - ① 限られた時間の中でコミュニケーションをしていく中で生じるギャップ。
 - ② ある分野の専門家とそうでない方にあるギャップ。
 - ③ ②のうち、原子力分野に特有のギャップ。

【グループワークに関して】

- ・ **木村氏は参与観察に入らず、全体を見るべき。**
- ・ 3 回グループワークをするにつれ、参加者の気持ちがほぐれていったように見えた。
- ・ 1 回目のグループワークのときもシールを貼りたかったという意見があった。
- ・ 意見は言い出せないが、シールを貼ることで意思を表明をしている方もいた。「話す」以外の方法があるのは良いことだと感じた。
- ・ 3 回とも同じグループだった方にとっては、新鮮味が足りなかったかもしれない。
- ・ **自分の意見を書く、話すことが得意な方、不得意な方がいた。**
- ・ 強い言葉で意見を言う方に、周りの方が影響を受けている様子が見られた。

- ・ 1人が独占的に話をしていて、他の方が話しづらい雰囲気になっているところもあった。
→ファシリテーター（サブファシリテーター）は、発言の少ない方の意見を引き出す努力をすべき。
→ファシリテーターだけではなくて、参加者全員がそれを理解していることが重要。
→ファシリテーションについて、**詳しい解説が必要**。
- ・ 共感する付箋にシールを貼る作業は、グループが変わってしまうと意見の把握が難しいため、困難だったようだ。
- ・ サブファシリテーターが意見を書きとめることに関して、参加者から、本人が書くべきという意見があった。
- ・ グループワークの方法を理解していない方が多かった。2回目、3回目の冒頭の総合ファシリテーターの説明を聞いていない方が多かった。
- ・ 3回目のグループワークのルールに混乱が見られた。
→**木村氏が、全体に、統一されたルールを伝えるべき**。
- ・ サブファシリテーターとしては強く出過ぎたかもしれない。反面、そこまでしないとスムーズに進行しなかったのではないか。
→**サブファシリテーターの役割（立ち位置）を、参加者に明言すべき**。

2. 第2回フォーラムについて（配布資料 F2-3、F2-6）

第1回フォーラムの反省点を踏まえ、第2回フォーラムの内容が検討された。まず、木村氏から、資料 F2-3 に基づいて、プログラムの大まかな案が説明された。続いて、細かい内容の検討が行われた。

【全体】

- ・ 参与観察メンバーを変更。
- ・ 会場のレイアウトを変更（最終ページ参照）。
- ・ 「**一人称で話し合う**」というルールの導入。（「我々専門家はこう考える」「一般市民はこう思っていると思う」は禁止。「私はこう考える」で話してもらう）
- ・ 1回につき1つずつルールを追加したらどうか。（第1回は「さん」づけで呼ぶこと。第2回は「一人称で話し合う」こと）
- ・ **終了時間を守る**。そのために、余裕を持った設計にする。

【イントロダクション】

①最初の一言

2週間経ち、改めて感じることもあると思われるので、最初に参加者から一言ずつお話いただく（1人30秒程度）。

②フォーラムの目的を明確に提示

問題点、原因、仮説、対策（フォーラム設計）を再度明確に説明する。

③前回の振り返り

第1回のグループワークの内容（「原子カムラ」のイメージ）をまとめ、参加者に提示する。

【情報提供】

マスメディア（特に新聞）での「原子カムラ（村）」という単語の用いられ方が情報提供される予定である。以下の意見を基に当日までに修正されることになった。

- ・ インターネット、テレビ、週刊誌などでも使われるが、特に新聞についてお話しする、と話すべき。
- ・ 運営側が作為的にデータを選んだと思わせないように、注意が必要。
- ・ インターネットについても、「検索上位10位」程度の定性的なデータは示すべき。

【グループワーク】

①方法

- ・ 3グループ。グループ替えはしない。（第1回は多くの参加者と話してもらうことを目的にし、3回グループ替えをした。今回はじっくり話してもらう）
- ・ グループ分け、ファシリテーターの決定はくじ引き（運営側で作為的にファシリテーターを選択しない。重複した場合はやむを得ない）。
- ・ グループワークでは、ブレインストーミングを行う。
基本形：付箋に記入→1人ずつ発表（同時にシール貼り）→自由討議。
- ・ **ブレインストーミングの方法、サブファシリテーターの立場を、冒頭に木村氏が全体に説明する。**また、ハンドアウトも配布する（ハンドアウトは色のついた紙に印刷する）。
→ホワイトボード等にもブレインストーミングの方法を記載し、いつでも参照できるようにしてはどうか。
→サブファシリテーターのフォローを減らすと、おそらくスムーズに進行しないと思われる。しかし、あえて失敗してもらい、参加者の成長を促すのもひとつの手。
⇒あらかじめ参加者に、ファシリテーターが注意すべきポイントを伝える。ファシリテーターおよび他の参加者がそのポイントを逸脱しそうになったときに、サブファシリテーターがそれとなく注意する。
- ・ **発言1人1分ルールを導入する。**1分間の砂時計を回していくことにする。（長時間話す人の話を途中で制するのは高いレベルのファシリテーション技術を必要とするため）

②テーマ

資料 F2-5 を参照しながら議論された。

- ・ 【イントロダクション】で前回のグループワークで出た意見を分類してお示しするが、それについて再度話し合う必要はあるか？
 - 漠然と再度話し合っても、同じような意見が出るだけになる可能性がある。
 - （会場からのご意見を参考にすれば）特に「特徴」について再確認し、どうしてそういう特徴があるのか、それを越えるためにはどうしたらよいかを話し合ってもらえばいいのではないか。
- ・ 時間の制限上、構成員をもう少し具体的にする、特に問題が多いと思われる特徴を洗い出す、くらいが精一杯ではないか。越えるための対策までは話し合えないと思う。
 - 話し合いが間に合わなくても構わないが、テーマとしては「越えるための対策」まで設定しておくべきだろう。
- ・ 原子力に関するテーマだと、専門家が、個人ではなく、「我々専門家はこう思う」という視点に立ってしまうおそれがある。→「一人称ルール」で対応（先述）。
- ・ 第1回の意見では、一般的な「ムラ」に対するイメージと、「原子カムラ」に対するイメージが混在しているように感じる。その区分けをもう一度話し合ってもらってはどうか。
- ・ コミュニケーションに慣れてもらうという意味では、「原子カムラ」と全く関係のないテーマ設定でもいいかもしれない。

以上の議論を受け、テーマは『なぜ、原子カムラはなんとなく良いイメージを持たれないのか？ そのイメージを払拭するには、どうしたら良いだろうか？』とした。①前回のまとめを再確認し、②なぜ良いイメージを持たれないのかを考え、③払拭する方法を話し合う。

【共有・質疑応答・次回のテーマ】

- ・ 各班の発表時間を5分に変更（3分では短い印象があった）。発表の時点では質問を受けないことにした（すぐには質問を思いつかないのではないか）。
- ・ 発表者は、ファシリテーターに固定しない。班の中で決めてもらう。
- ・ 発表後、参加者各自が模造紙を見て回り、紙に質問を記入する（各自がじっくり模造紙を見て考える時間を確保する）。
- ・ 質問紙を班ごとに分け回収。回収された質問の集約と回答作成を、再びグループワークで行う。→回答を各班が発表。

【振り返り】

- ・ アンケート記入時間を 10 分に変更（5 分では短い印象があった）。
- ・ 振り返りの時間は 1 人 1 分に変更（30 秒では短い印象があった）。

【その他】

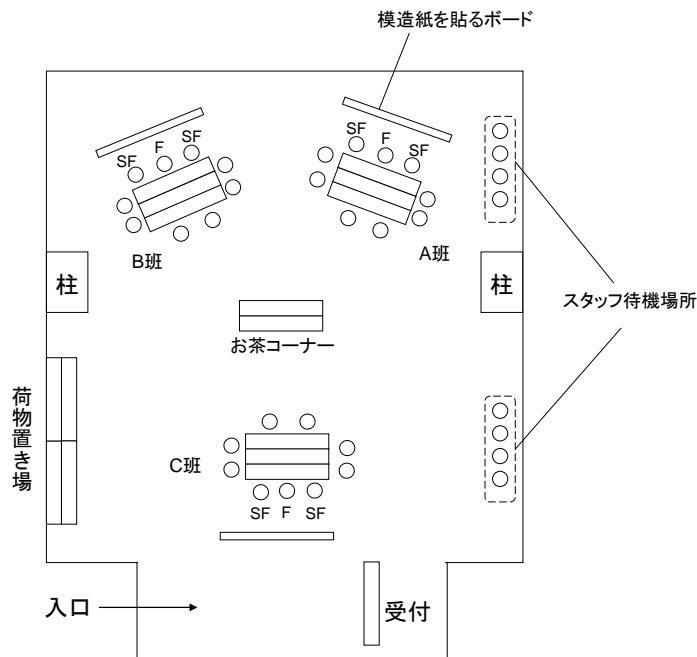
- ・ フォーラム終了後、参加者同士が自由に話し合えるコーナーを設置する（30 分程度）。
- ・ 意見を言いたいときに掲げるカードのようなものを導入しても面白いかもしれない。
→なかなか意見を言い出せない人にとっては有効かもしれない。
→乱用される危険もある。

3. その他（配布資料 F2-4）

フォーラムの記録の作成について、議論された。記録は、①分析用の記名データ（公開しない）、②完全匿名のデータ（公開用）を作成することになった。

第 2 回フォーラムで用いる資料は、本日の議論を踏まえ、木村氏により作成され、第 2 回フォーラムの事前に運営者に共有されることとなった。

以上



図：第 2 回フォーラム 会場配置図